

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良くなっている	-	-	-	
	やや良くなっている	百貨店（営業担当）	それ以外	・前年同月に比べ来客数、売上共に上回った。レディースのファッション関連（婦人靴・ファッションパーツ・ブレタ・キャリア等）及び絵画等が苦戦している。ファッション関連商品は目的買いに終始している。	
		観光名所（職員）	来客数の動き	・前年度よりも入場者数がかかなり増えてきている。	
	変わらない	一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・業務店への販売量が低調である。	
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・3～4か月前から、個人消費が少し活発になってきている。衝動買いも増えてきており、自分の必要なもの以外にも何か買っておこうという傾向が見受けられる。	
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・必要なものだけを必要な量だけ買う傾向は益々顕著になっており、関連品購入やまとめ買いが減少している。	
		スーパー（店長）	競争相手の様子	・競合店間のチラシや、それ以外の安売りによる客の取り合いの競争が激しくなっている。	
		家電量販店（営業担当）	来客数の動き	・気温の変化とともに来客数が増加してきている。エアコンについては、予想される暑い夏への対策としての買い換えが台数を押し上げている。また、小物の販売も多少上昇してきている。	
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売台数は前年よりも少なく、目標としている数字からあまりにもかけ離れた達成率で推移している。	
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の販売市場が回復しない。	
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・愛媛県松山市での湧水の影響は、自動車の販売にあまり関係ないようだが、客の購買動機としてはマイナスに働くようである。最近、新型車が投入されたが、予約状況は芳しくなく、販売努力はしているが苦戦は続きそうである。	
		乗用車販売店（管理担当）	販売量の動き	・来客数も少なく、売上の増加が見込めない。	
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・販売量については、今月だけを見れば、なんとか前年は上回っているが、1～6月の半期で見た場合、前年割れの厳しい状況が続いている。	
		観光型旅館（経営者）	単価の動き	・単価が上昇しないなど、国内旅行については上向いていない。	
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・今月は法人関係、職場、趣味のグループ、親睦旅行など団体旅行が比較的多かったため、販売は順調に推移している。夏休みの旅行相談、シルバー世代の海外旅行相談など来客数は増加しており、景気は前月に続いて良好である。東京へのビジネス用航空券の売上も引続き順調に推移している。	
		タクシー運転手	来客数の動き	・四国八十八ヶ所参りで巡るお寺の数が、昨年と比べて比較的多く、春ごろの売上と同程度を確保している。しかし、街中を走ってみると、夜は飲みに出ている人もおらず、客が乗っても近距離のため、売上げ自体が伸び悩んでいる。	
		通信会社（管理担当）	販売量の動き	・売上は、既存店舗で前年比100.2%と、ほぼ昨年と同水準で推移している。	
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・今月は、前年と比較すれば若干は良い状況であるが、月の半ば、後半の客の伸びが今一つである。	
		やや悪くなっている	商店街（代表者）	それ以外	・一昨年、中心市街地にあった大手スーパーが撤退し、今月は他の大手スーパーが来春閉店を公表している。これにより、マンション・ムで中心街に回帰しつつある居住者の増加が鈍る恐れがある。
			商店街（代表者）	販売量の動き	・来客数もそこそこあり、客単価も前年並みであるが、販売量の絶対数がかかなり落ち込んでいる。パーゲーション待ちかもしれないが、必要なものしか買わないという傾向がだんだん強くなっている。

	一般小売店〔生花〕(経営者)	競争相手の様子	・同業者に聞いても、ある程度の規模のところは売上は落ちていないが、零細の商店などは大型店に押されて売上がかなり落ちており、苦戦しているようである。	
	一般小売店〔乾物〕(店員)	お客様の様子	・中元の売上がどんどん落ちている。	
	スーパー(店長)	販売量の動き	・住民税の負担が増加したことにより、年金暮らし生活者や老人の買物量が少し減ったようである。	
	スーパー(店長)	単価の動き	・夏の中元ギフトの出足が遅く、単価も例年より下がっており、七夕商材も動きが悪い。	
	スーパー(予算担当)	販売量の動き	・少雨の影響で湯水となる地区が出てきており、一部飲料水等好調な商品があるが、消費者の動向としては、買い控え気味である。	
	コンビニ(エリア担当)	単価の動き	・当業界においては、出店拡大による競争の激化と、景気の停滞による客単価の減少のため、景気が良いとは言えない。	
	衣料品専門店(経営者)	単価の動き	・ここ最近、昨年まで売れていた商品群と今年の商品は流れが変わってきている。特に、パンツについてこの傾向が強く、大きく単価が低下している。レディース、メンズのトップスはある程度好調であるが、十分カバーができていない状況である。	
	衣料品専門店(経営者)	来客数の動き	・百貨店やショッピングセンター毎にばらつきがあるものの、相対的に夏のバーゲンの開始時期が昨年より早まっているところが多い。今月はバーゲン待ちで、前年同期比で来客数・売上共に1割前後下回っている。	
	都市型ホテル(経営者)	お客様の様子	・大手建設会社の破産の影響で、その子会社の破綻が懸念されているという話が、周りの客から聞こえてくる。そのため、高知の経済はまだ悪くなる。	
	設計事務所(職員)	それ以外	・業務の発注量が例年よりも少なく、低価格競争が恒常化してきているため、利益率が低下すると共に、労働環境の厳しさは変わらない状況で、賃金も上がっていない。	
	悪くなっている	一般小売店〔酒〕(販売担当)	お客様の様子	・取引先料飲店からの納入価格値下げ、過剰協賛等の一方的な要望は益々エスカレートしてきている。事情を聞いてみると、料飲店の売上もかなり落ち込んでおり、利益重視方針は、飲食サービス業態にも相当浸透してきている。
		通信会社(支店長)	来客数の動き	・ボーナス商戦であるが、客の反応を含めて活気がない。
		美容室(経営者)	来客数の動き	・客単価は変わりが無いが、来客数がかかなり減っている。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・相変わらず価格競争が激しく、販売が高級品と低価格品の二極化している。
		パルプ・紙・紙加工品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・価格の値上げ修正が通り、現在のところ、一服状態である。
		建設業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・今月末で公共工事の受注残高はついにゼロになる。しかし、民間の設備工事が回復してきており、トータルではプラスに転じている。
		輸送業(経営者)	それ以外	・先日、大型電気店へ行ったが、かなり高額な電化製品が立て続けに売れていくのを目の当たりにした。
		通信業(支店長)	受注量や販売量の動き	・市場全体で、販売量の純増数が前年比で増加している。ここ数年なかった現象である。
	変わらない	一般機械器具製造業(経理担当)	受注量や販売量の動き	・地域別に見て、関西は期待できる動きが見られたが、成約が遅れている。関東、東海は動きが鈍く厳しかったが、鉄鋼関係の受注は依然として堅調でありやや救われている。
		一般機械器具製造業(経理担当)	受注量や販売量の動き	・都市圏と地方とで地域格差はあるものの、全体的にクレーンの稼働率は高く、良好な状態が続いている。
		電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・官庁や工場の設備は激減しているが、オリジナル商品である特殊な粉末乾燥のプラントについては、大手企業から大変引き合いが多く、受注もしている。

	輸送業（支店長）	取引先の様子	・最重要顧客である飲料関係メーカーで生産が追いつかず、その部分を協力会社に委託生産している部分の取扱は増加したが、一方で経費も増えたため、利益には大きく寄与していない。	
	通信業（営業担当）	それ以外	・客との商談後の会話の中に、レジャー、家族旅行等の話題が多く出てきており、景気が確実に回復の方向に向いている。	
	公認会計士	取引先の様子	・客の資産表、決算書の前年比、前月比を分析しても変わりがない。	
やや悪くなっている	輸送業（役員）	取引先の様子	・今年度に入り、一般消費者関連（宅配、引越他）を始め、企業関連貨物の荷動きが毎月前年を下回り、受注量が落ち込んでいる。	
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・高知県の主要な業種である建設土木業が最悪の状態である。地場大手の建設土木業者が倒産し、取引先の中でその影響を受ける業者も多い。このような状況の中で、景気は更に悪くなる。	
悪くなっている	木材木製品製造業（経営者）	取引先の様子	・着工数が、毎月、前年比でマイナスである。原材料の高騰、土地の値上がり、円安、全部の材料が不景気の方に進んでいる。	
雇用関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	民間職業紹介機関（所長）	周辺企業の様子 ・建設・土木関係において倒産・業績悪化が予想される企業もあり、目を離せない。しかしながら、サービス業・製造業等においては、相変わらず採用意欲は高い。	
	変わらない	人材派遣会社（支店長）	求職者数の動き	・派遣の登録者数は減少傾向であったが、今月は一般事務や経理などの事務職案件が非常に増加したことにより、登録者は前年並みに回復している。一方、営業職・販売職のオーダー数は非常に多いが、このような職種が多いと登録者は減少し、事務職が増加すると、登録者数が増加する。働く側の意識としても、販売・営業は敬遠しがちであり、安定した事務職を選ぶ傾向にある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・この時期、特に中途採用は、お盆時期のUターン転職活動の山場に向けて、採用PRを控えている企業が多い。新卒採用もほとんどの企業が終了し、6月は採用市場は停滞時期となっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・高知県の新聞広告では、建物の落成や新店舗のオープン時に取引業者から協賛広告を募って祝賀広告を出すのが、近年は低調である。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数の前年同月比は、3か月前と比べ、増加率はやや低下しているものの、ほぼ同水準である。
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・求人状況は旺盛であるが、内定状況が横ばい状態である。
	やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年と比較して、新規求人数が減少している。
悪くなっている	-	-	-	